2015(平成 27)年度

研修報告書

不登校の未然防止のための
教諭と養護教諭の連携促進に関する研究

－相互の情報共有と養護教諭の役割認識からの一考察－

兵庫県立教育研修所　義務教育研修課

不登校対策推進に係る研修員

小西　寿美

〈 目 次 〉

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

１　不登校の現状と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

２　研究の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

３　研究の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

４　調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

(1)　教室における児童生徒の様子についての情報共有

(2)　保健室における児童生徒の様子についての情報共有

(3)　教室・保健室の子どもの様子の伝え方

(4)　養護教諭の職務として「特に必要」と考えるもの(先行研究との比較)

(5)　養護教諭の中心的役割（養護教諭の職務で最も重要と考える役割)

(6)　心の問題を疑う様子がある児童生徒への教諭の養護教諭に対する役割期待と養護教諭の役割認知

５　考察・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

(1)　時間の作り方の課題

(2)　意識の持ち方の課題

６　研究のまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15

参考・引用文献・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16

おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18

資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19

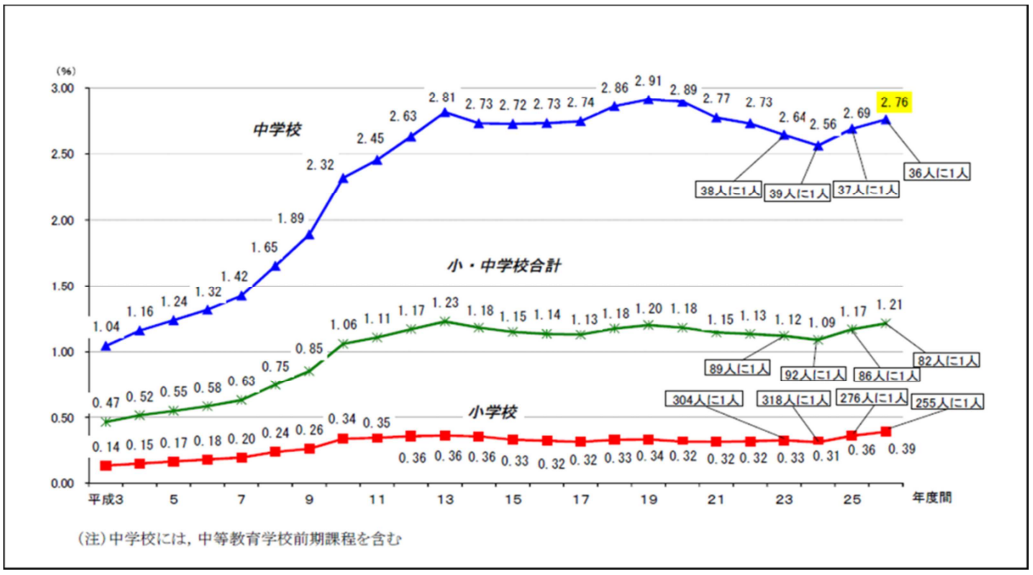
はじめに

平成 26 年度の全国の国公私立小・中学校における不登校児童生徒数は 122,897 人(文部科学省学校基本調査,2015)であり，依然として重要な教育課題の一つとなっている。これを受け，教育委員会，学校等において様々な取組が進められているものの，不登校児童生徒数は近年再び増加の傾向となっている。報告者は，勤務校である小学校において，養護教諭の立場から不登校児童やその家族への支援を行ってきたが，一旦登校できなくなってしまった児童に対する個別の支援には困難を感じることが多い。不登校になる前に，何とか児童のサインに気付き，養護教諭として適切な支援を行うことこそが必要であり，不登校に苦しむ児童やその家族を生まない未然防止に係る取組を積極的に行うべきであると考えている。そのために，養護教諭として何ができるのか，また，養護教諭と教諭がどのように連携する必要があるのかを改めて問い直し，課題を整理し，不登校未然防止の取組の在り方を考察することを目指し，本研究を行った。ここにその成果を報告する。

1　不登校の現状と課題

不登校とは，年度間に 30 日以上欠席した児童生徒のうち,「何らかの心理的，情緒的，身体的，あるいは社会的要因・背景により，児童生徒が登校しないあるいはしたくともできない状況にあること(ただし，病気や経済的な理由によるものを除く)」をいう(文部科学省「学校基本調査」による定義)。平成 27 年度学校基本調査(文部科学省,2015)によると，小学校・中学校の平成 26 年度の長期欠席者(30 日以上の欠席者)のうち,「不登校」を理由とする児童生徒数は，小学校は 25,864 人，中学校は 96,786 人であり,「不登校」を理由とする者の全児童生徒数に占める割合は，小学校で 0.39%(255 人に 1 人)，中学校で 2.76%(36 人に 1 人)である（**図 1**）。

図 1　「不登校」を理由とする者の全児童生徒数に占める割合の推移



平成 27 年度文部科学省学校基本調査より

兵庫県においては不登校の児童生徒が全児童生徒数に占める割合は全国平均を下回っているが，平成 26 年度は小学校で 820 人，中学校で 4,099 人と，依然として憂慮すべき状況が続いている(**表**

１)。こうした状況を受け，2008 年１月に中央教育審議会答申では「児童生徒の心身の健康問題について，関係者が連携して解決を図る」とされ，2008 年６月には学校保健安全法一部改正の中に「関係職員の連携協力の推進，心の健康への支援」が盛り込まれ，関係職員が連携して児童生徒の体だけでなく心の健康にも目を向けることが求められている。

表１　兵庫県の小中高等学校の不登校児童生徒数と割合（全国比較）

区　分		H22	H23	H24	H25	H26
国公私立小学校	兵庫県人数	726	789	777	827	820
	兵庫県割合	0.23	0.25	0.25	0.27	0.27
	全国割合	0.32	0.33	0.31	0.36	0.39
国公私立中学校	兵庫県人数	4,175	4,228	4,150	4,231	4,099
	兵庫県割合	2.60	2.60	2.55	2.61	2.57
	全国割合	2.73	2.64	2.56	2.69	2.76
国公私立高等学校	兵庫県人数	1,606	1,513	1,425	1,538	1,610
	兵庫県割合	1.12	1.06	0.99	1.07	1.11
	全国割合	1.66	1.68	1.72	1.67	1.59

平成 26 年度「兵庫県下の公立学校児童生徒の問題行動等の状況について」より

２　研究の目的

学校内での連携協力における課題として，早坂・齊藤・中島(2001) は「教諭，管理職は養護教諭に学校全体に関わる管理的側面の強い役割を期待するが，養護教諭は個々の問題に関わる教育的なものを役割認知している」と，養護教諭の職務に対する教諭と養護教諭の認識のズレが存在することを報告している。また，千葉(2001)は「不安や悩みなどで多くの生徒が保健室を訪れており，適切な援助に向け養護教諭と教師との連携が重要になる。しかし，現状では生徒理解の情報交換を行う時間が取りにくく，援助方針の共通理解が図られにくいことなどから円滑な援助が難しい」と，時間が取れないことで生徒理解や援助方針の共通理解にズレが生じることを指摘している。このように教諭と養護教諭との間にズレがあると，情報共有が滞り，多方面からの支援や医療機関との連携に支障が生まれやすくなり，不登校未然防止に対する取組を阻害すると考えられる。そこで，本研究では，不登校の未然防止や早期発見・早期支援を行うために，教諭と養護教諭との間にはどのような意識･行動などのズレが見られるのかを調査し，その結果をもとに，ズレを克服する方策を考察し，連携を促進するための提案を行うことを目的とした。本研究によって教諭と養護教諭の連携が促進され，不登校未然防止への貢献につながることが期待される。

３　研究の方法

教諭と養護教諭それぞれに情報共有や養護教諭の役割認識に関するアンケート調査を行い，それらに対する意識や行動の回答のズレを統計的に検討し，結果を元に考察を行うことにした。

(1)　調査時期

平成 27 年 11 月

(2)　調査協力者

Ａ町，Ｂ市，Ｃ市立全小中学校の養護教諭と，Ａ町立全小中学校教諭を対象に実施。

(3)　調査内容

ア　教室における児童生徒の様子についての情報共有

教室での児童生徒の６つの様子「ア：学校生活で気になる様子はない」「イ：教室での友人関係(トラブルが多い，孤立している等)が気になる」「ウ：その子の言動や行動(落ち着きがない，自分を出さない等)が気になる」「エ：学習面(成績，宿題，学習態度等)が気になる」「オ：家庭の生活(食事，身だしなみ，忘れ物等)が気になる」「カ：被虐待をうかがわせる様子(あざ，身だしなみの著しい乱れ，給食時の食欲等)がある」に，４種類の出欠状況「ａ：遅刻・欠席はほとんどない」「ｂ：遅刻は多いが休まない」「ｃ：急に遅刻が増えた」「ｄ：欠席が目立ち始めた」を組み合わせた 24 項目を作成した。これらの項目について，教諭には「養護教諭にどの程度伝えているか」という行動と「伝える必要があると思うか」という意識についてそれぞれ３段階で尋ねた。また，養護教諭には同じ 24 項目に対して「教諭からどの程度伝えてほしいか」という希望について３段階で尋ねた。

イ　保健室における児童生徒の様子についての情報共有

保健室来室時の児童生徒の６つの様子「ア：明らかなけが・体調不良である」「イ：明らかなけがや体調不良はないが体の不調を訴える」「ウ：養護教諭に相談しに来た」「エ：何か言いたいことがありそうだが言わない」「オ：集団での様子が気になる(他の子どもと会話がない，一人だけ離れている等）」「カ：被虐待をうかがわせる様子がある(あざ，頭髪や服装の著しい乱れ等)」に，４種類の保健室来室頻度「ａ：ふだん来室はほとんどない」「ｂ：来室がたまにある」「ｃ：来室が目立つ」「ｄ：来室が頻繁である」を組み合わせた 24 項目について，養護教諭には「教諭にどの程度伝えているか」という行動と「伝える必要があると思うか」という意識についてそれぞれ３段階で尋ねた。教諭には同じ項目に対して「養護教諭からどの程度伝えてほしいか」という希望について３段階で尋ねた。

ウ　養護教諭の職務についての教諭と養護教諭の役割認識

養護教諭の 12 項目の職務（①救急処置，②健康問題の早期発見・把握，③環境衛生問題の日常的把握，④健康問題改善のため担任に助言･協力，⑤個別･集団への保健指導，⑥担任の行う保健指導への支援，⑦学校保健計画の立案，⑧保健主事として学校保健を推進，⑨生徒(生活)指導への参画，⑩教育相談組織への参画，⑪心の問題を持つ児童生徒への対応・指導，⑫保健の授業；早坂ら(2001)と同様の項目）について，教諭・養護教諭それぞれに養護教諭の職務としての必要度を４段階（ａ：特に必要，ｂ：比較的必要，ｃ：比較的不必要，ｄ：不必要）で尋ねた。また同じ 12 項目から，中心的役割と考える項目を１つ選択させた。

エ　心の問題を疑う様子がある児童生徒への教諭の養護教諭に対する役割期待と養護教諭の役割認知

心の問題を疑う様子がある児童生徒への養護教諭の具体的な関わり方 16 項目 「ア：元気がない児童生徒に話を聞く」「イ：教室での友人関係(トラブルが多い，孤立している等）が気になる児童生徒に話を聞く」「ウ：言動や行動(落ち着きがない，自分を表現しない等)が気になる児童生徒に話を聞く」「エ：学習面(成績，宿題，学習態度等)が気になる児童生徒に話を聞く」「オ：家庭での生活(食事，身だしなみ，忘れ物等)が気になる児童生徒に話を聞く」「カ：虐待をうかがわ

せる様子がある児童生徒に話を聞く」「キ：遅刻が増えてきた児童生徒に話を聞く」「ク：欠席が増えてきた児童生徒に話を聞く」「ケ：保健室来室が増えてきた児童生徒に話を聞く」「コ：遅刻や欠席が増えてきた児童生徒の保護者に電話で家庭での様子を聞く」「サ：学校生活の様子が気になる児童生徒の保護者に電話で家庭での様子を聞く」「シ：保護者と出会ったときに児童生徒について情報交換をする」「ス：気になる児童生徒についてスクールカウンセラーに相談する」「セ：気になる児童生徒について学校医に相談する」「ソ：学校以外の支援・相談機関や適切な医療機関を探す」「タ：学校以外の支援・相談機関や適切な医療機関を保護者に紹介する」について，養護教諭には自身の職務として「ａ：する必要がある」「ｂ：ややする必要がある」「ｃ：あまりする必要はない」「ｄ：する必要はない」の４つから，教諭には「ａ：してほしい」「ｂ：ややしてほしい」「ｃ：あまりしてほしいとは思わない」「ｄ：してほしいとは思わない」の４つから，１つを選択させた。

(4) 調査の手続き

各市町教育委員会の協力により各学校の管理職へ趣旨説明を行い，管理職から教諭・養護教諭へ質問紙を配付した。プライバシーの保護のために回答は無記名とし，A町は各学校で密封，B市は個別に郵送による返信，C市は教育委員会で集約する形式で回収した。その結果，教諭 139 名，養護教諭 36 名から回答を得た。アンケート調査用紙は資料を参照。

４　調査結果

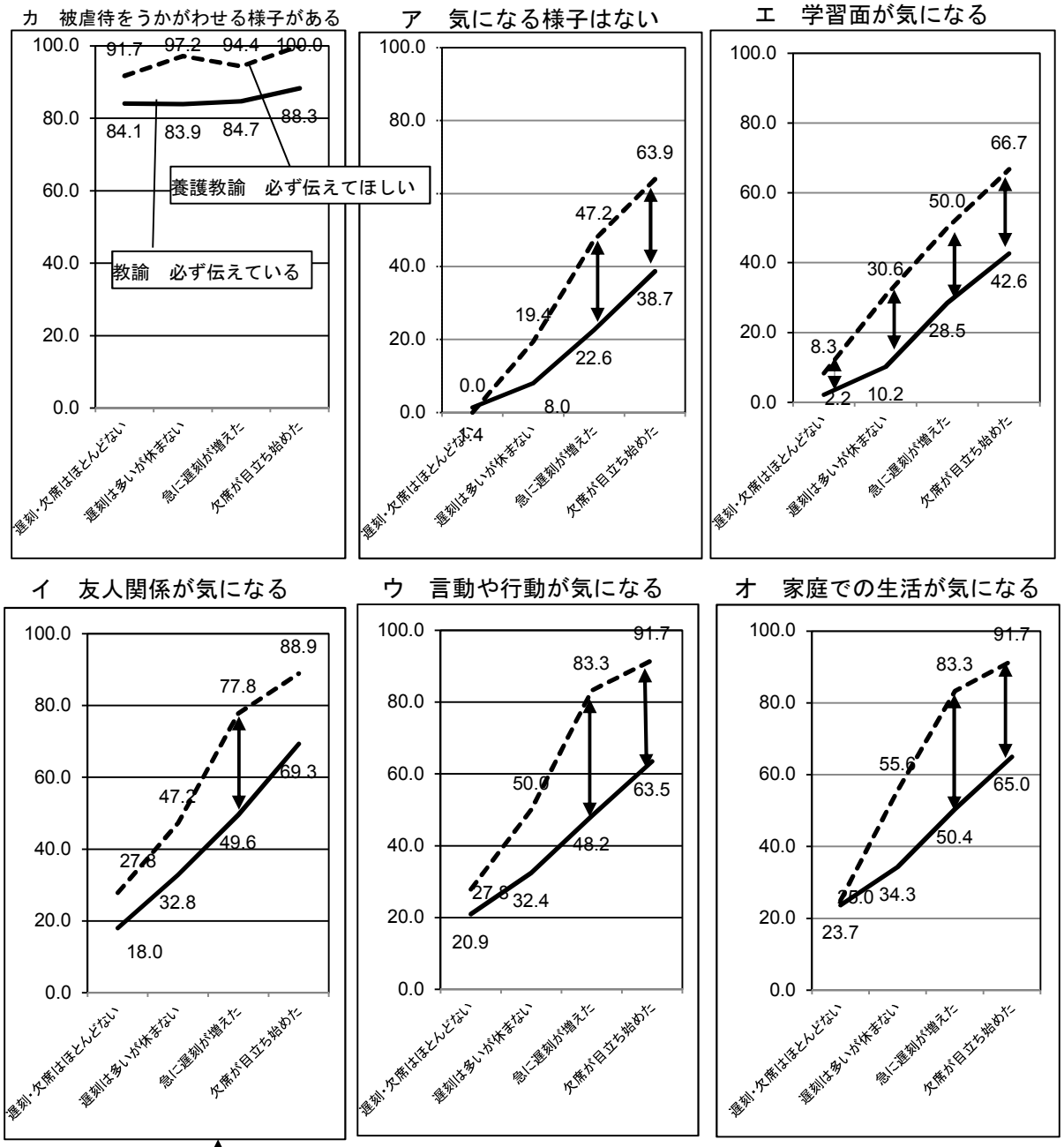
調査内容アより教諭が養護教諭に伝える意識ならびに行動と養護教諭の希望との比較，イより養護教諭が教諭に伝える意識ならびに行動と教諭の希望との比較，ウより養護教諭の役割認知と教諭の役割期待との比較，および養護教諭の中心的役割に対する認識の比較，エより養護教諭の役割認知と教諭の役割期待について，χ^2検定およびカッパ係数の算出により比較を行った。結果を示したグラフ中ので，両矢印あるいは下線のある箇所は統計的な差が見られたことを意味している。

(1)　教室における児童生徒の様子についての情報共有

教諭の行動と養護教諭の希望を比較した(**図２**)。「カ：被虐待をうかがわせる様子がある」ときについては，教諭の伝える行動と養護教諭の伝えてほしい希望が，出欠状況に関わらず高い割合で一致していた。「ア：気になる様子が特にない」子どもと，「エ：学習面が気になる」子どもについては，被虐待と比べて両者の行動も希望も低く，とくに教諭は子どもの遅刻・欠席がない状態のときはほぼ伝えていないという結果になった。養護教諭の希望もそれほど高くないが，教諭が伝えている以上に「様子を聞かせてほしい」と思っていることがわかる。**図２**のグラフにある両矢印は，教諭の行動と養護教諭の希望との間に統計的に差があったところを示しているが，特に学習面が気になる子どもの様子の伝え方については，出欠状況の４段階すべてにおいて差が見られるという特徴があった。また，「イ：友人関係が気になる」，「ウ：言動や行動が気になる」，「オ：家庭での生活が気になる」子どもについては，「ア：学校生活で気になる様子はない」，「エ：学習面が気になる」と比べると両者の行動も希望も上昇している。しかし，グラフの右側の２項

目である遅刻・欠席が増加した際に，養護教諭の「必ず伝えてほしい」という希望が急上昇するため，教諭の伝え方とズレが大きくなったと考えられる。

図２　教室における児童生徒の様子の伝え方　教諭の伝えている行動と養護教諭の伝えてほしい希望の比較



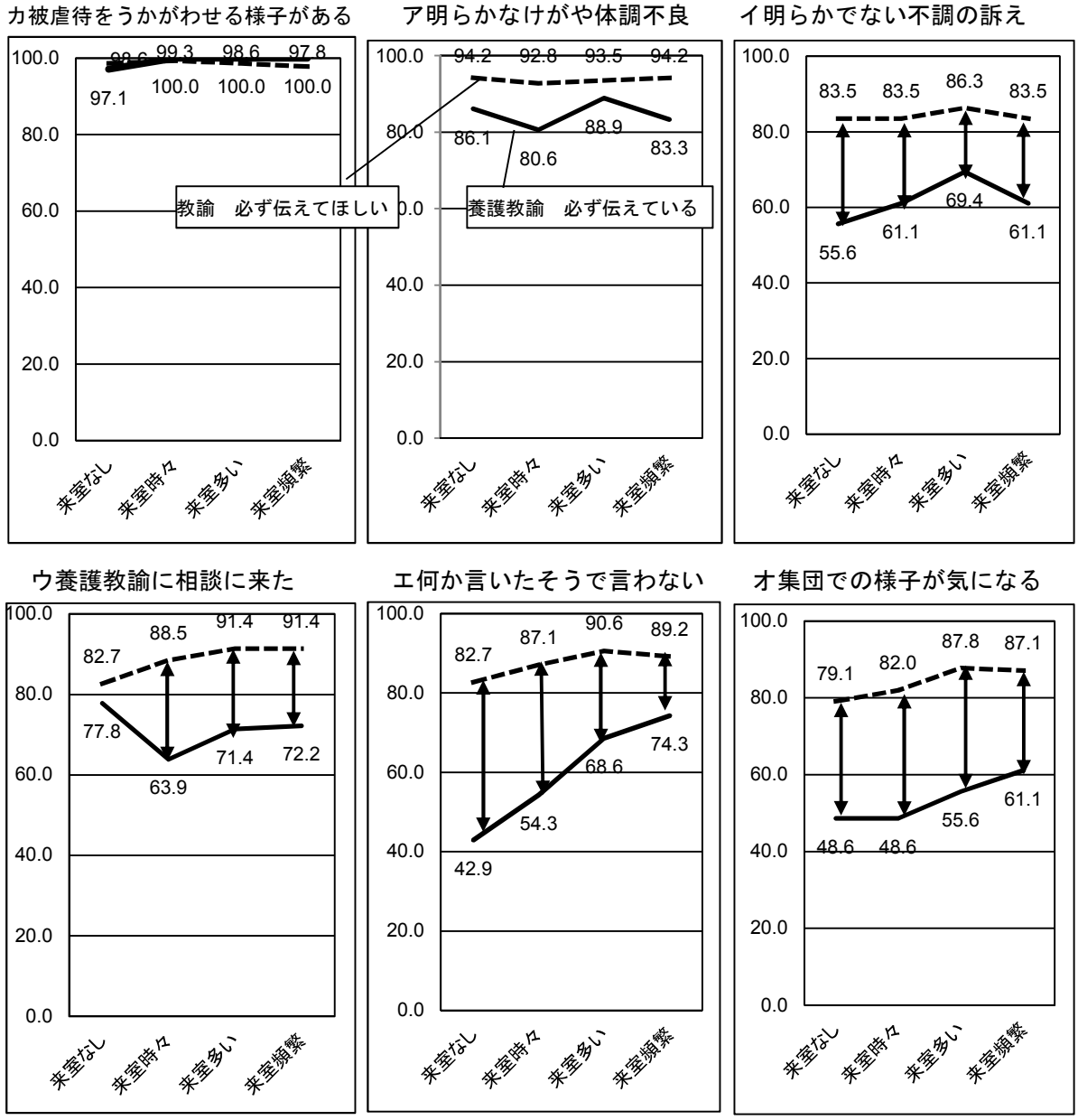
※ ↕ は，統計的にズレが見られた項目（χ^2検定で有意確率５％以下のもの）

以上をまとめると，教諭は気になる様子が特にない子どもや，学習面が気になる子どもについては養護教諭に伝えない傾向が強いが，遅刻や欠席が増加すると伝える行動は増加する。とはいえ全般的に養護教諭の希望ほどには伝えていない。養護教諭は，気になる様子が特にない子どもや，学習面が気になる子どもの様子もできれば伝えてほしいと考えており，特に遅刻・欠席が増加したときは，その理由によらず必ず伝えてほしいと考えていると思われる。このように，教室における子どもの様子の情報共有にズレがみられる結果となった。

(2)　保健室における児童生徒の様子についての情報共有

養護教諭の行動と教諭の希望を比較した(**図３**)。「カ：被虐待をうかがわせる様子がある」ときと「ア：明らかなけがや体調不良による来室」は，両者の伝える行動と希望が高い割合で一致していた。「イ：明らかなけがや体調不良はないが体の不調を訴える」，「ウ：養護教諭に相談しに来た」，「エ：何か言いたいことがありそうだが言わない」，「オ：集団での様子が気になる」ときについては，「カ：被虐待」や「ア：明らかなけが・体調不良」と異なり，教諭の希望と養護教諭の行動に差があるという結果になった。これらのグラフから，教諭は来室頻度に関係なくどんな様子も伝えてほしいと思っていることがわかる。一方，養護教諭は教諭の希望ほどには伝えておらず，来室頻度の増加が伝え方の増加につながっていない。このことから，養護教諭は来室頻度よりも子どもの様子によって，教諭に伝えるかどうかの判断をしていると考えられる。以上のように，保健室での子ども様子についての情報共有にもズレが見られるという結果であった。

図３　保健室における児童生徒の様子の伝え方　養護教諭の伝えている行動と教諭の伝えてほしい希望の比較



※ ↕ は統計的にズレが見られた項目（χ^2検定で有意確率５％以下のもの）

(1) (2) の結果より、教室ならびに保健室での子どもの様子の情報共有では，お互い相手の希望ほどには伝えられていないが，自分に見えない子どもの情報は伝えてほしいと考えていることがわかった。つまり，双方ともに情報を共有したいと考えているということが示唆された。

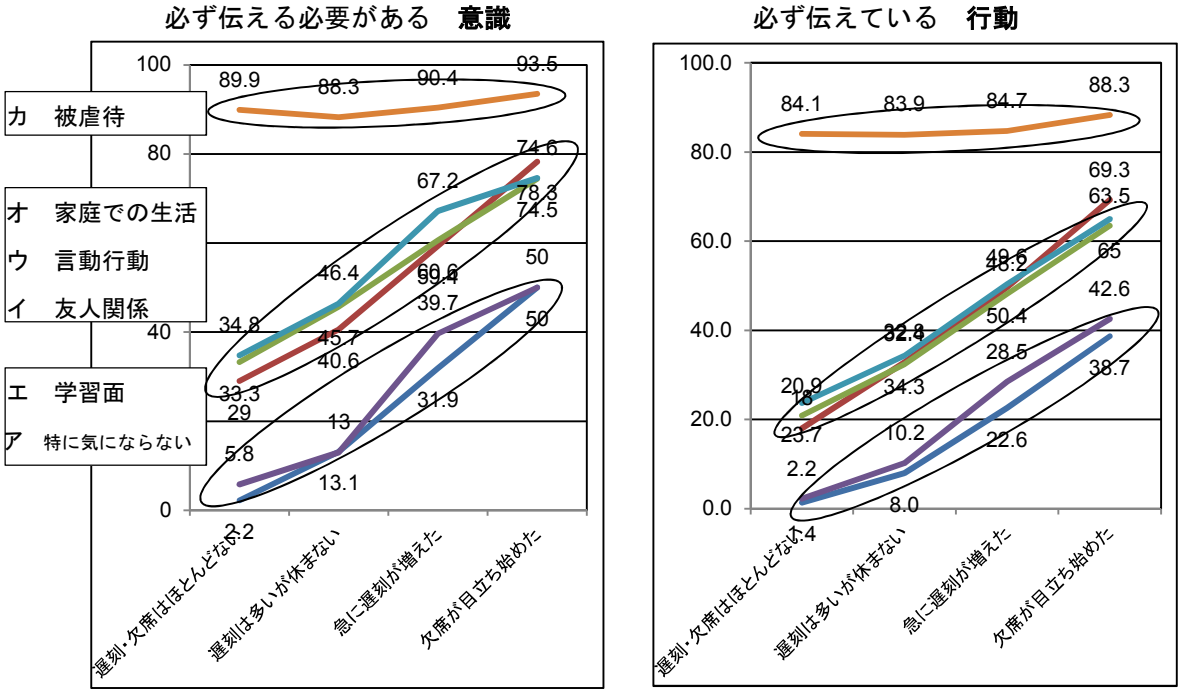
(3)　教室・保健室の子どもの様子の伝え方

調査内容のア・イから，教諭は教室の，養護教諭は保健室の子どもの様子を相手にどの程度伝える必要があると思っているか, 実際にどの程度伝えているかという自身の意識と行動を調べた。

ア　教諭自身の教室における子どもの様子の伝え方

教諭の結果は伝える意識と行動の傾向から３つに分類された(**図４**)。伝える意識も行動も割合が一番高いのは「カ：被虐待をうかがわせる様子がある」ときであった。逆に，伝える割合が低い傾向として「エ：学習面が気になる」ときと「ア：気になる様子が特にない」ときがあり，それらの間に「オ：家庭での生活が気になる」「ウ：言動行動が気になる」「イ：友人関係が気になる」ときがあるという結果であった。「家庭」「言動行動」「友人関係」の３つは「生徒指導に関わる様子」と考えられ，学習面等と比較すると伝える意識も行動も高かった。しかし，全体的に見比べると意識に比べて行動が低下しており，教諭は伝える必要があると思っても，実際にはなかなか伝えられていないと考えられる。

図４　教室における児童生徒の様子の伝え方　教諭自身の意識と行動の比較

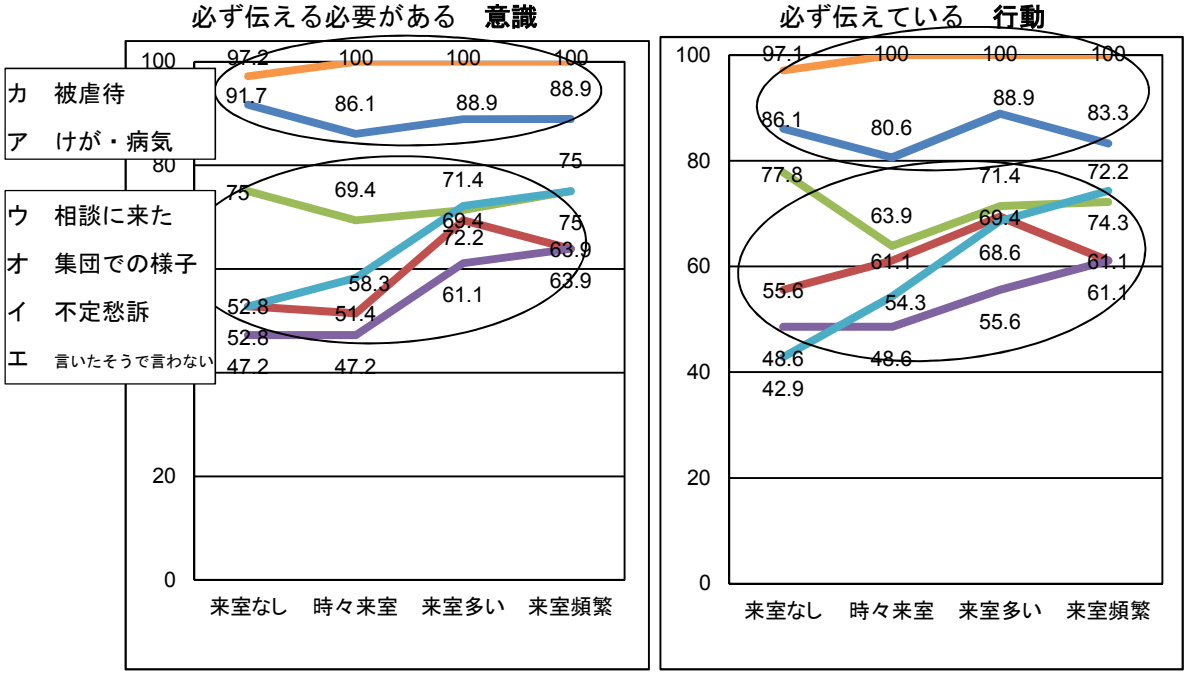


イ　養護教諭自身の保健室における子どもの様子の伝え方

養護教諭の結果を見ると(**図５**),「カ：被虐待をうかがわせる様子がある」「ア：明らかなけが・病気」は緊急性の高いもの，処置が必要なものであり，教諭に伝える意識も行動も高い割合であ

った。「ウ：養護教諭に相談に来た」「オ：集団での様子が気になる」「イ：明らかなけが病気はないが体の不調を訴える」「エ：何か言いたいことがありそうだが言わない」などは「心に関すること」と考えられ，意識も行動も低い傾向であった。また養護教諭は教諭の結果と異なり，意識と行動のグラフにほぼ変化が見られなかった。つまり，伝える必要があると思うことは教諭に伝えるが，伝える必要がないと思うことは伝えていないと考えられる結果となった。

図５　保健室における児童生徒の様子の伝え方　養護教諭自身の意識と行動の比較



このように，教諭は生徒指導に関連する様子が気になるときは養護教諭に伝えようとしているが，なかなか実際は伝えていないという結果であった。ということは「伝えない」のではなく，「伝える時間がない」という時間の作り方が課題ではないかと考えられる。養護教諭は伝える必要があると思えば伝えているが，心に関する問題を疑う様子はあまり伝えようとはしていない傾向が見られた。ということは，養護教諭の課題は時間の作り方ではなく意識の持ち方にあるのではないかと考えられる。このように，日常の子どもの情報共有について，教諭・養護教諭それぞれの課題が明らかになった。

(4)　養護教諭の職務として「特に必要」と考えるもの（先行研究との比較）

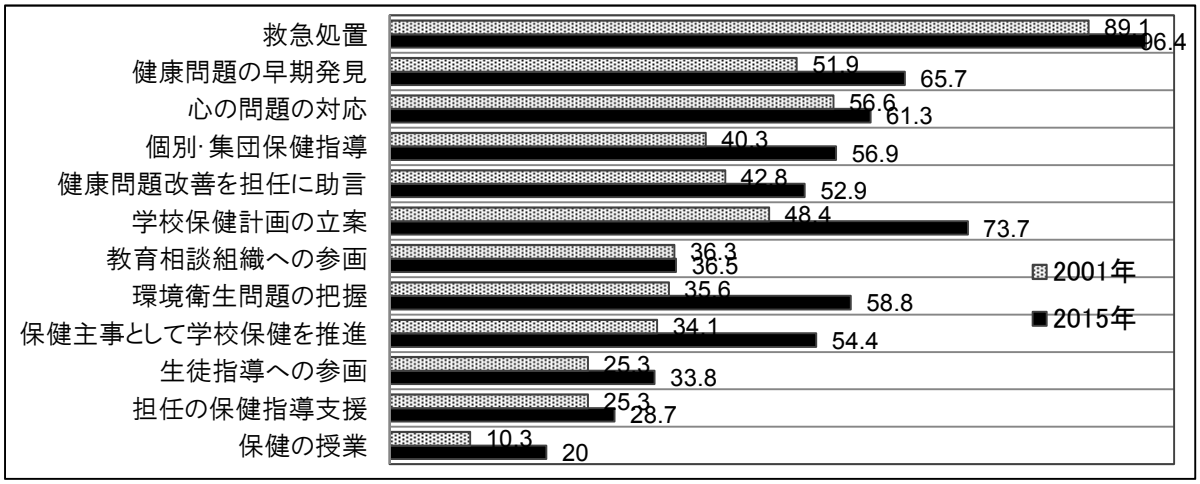
保健室で職務を行う養護教諭について，教諭が期待する役割と養護教諭自身が役割だと認識することにズレがあるのではないかと考え，養護教諭の職務に対する教諭と養護教諭の認識のズレを調査した早坂ら(2001)の先行研究と同じ内容で調査を行った。

ア　教諭が養護教諭の職務として「特に必要」と考えるもの

教諭の結果を 2001 年と比較した(**図６**)。教諭が「特に必要」と考える傾向としては 2001 年と変わっていないが，今回の方が「特に必要」の割合が養護教諭と比べて多岐に渡って高く，養護

教諭の職務に対しての期待度が全体的に上昇している結果となった。

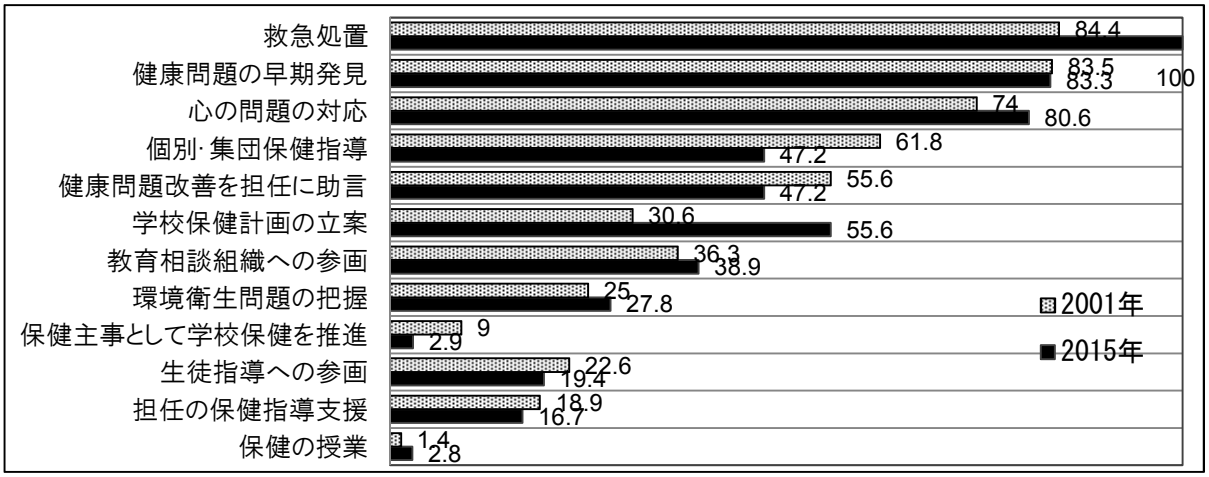
図６　教諭が養護教諭の職務として「特に必要」と考えるもの



イ　養護教諭が自身の職務として「特に必要」と考えるもの

養護教諭の結果を 2001 年と比較した(**図７**)。今回「特に必要」とする職務で高い割合を示したのは救急処置，健康問題の早期発見，心の問題への対応であった。2001 年に比べると，学校保健計画の立案など管理的側面の役割の認知度もやや増加しているが，その他は全体的に低下しており，養護教諭自身が「特に必要」と考える職務は，子どもの個々の体と心に直結する問題により一層特化している結果となった。

図７　養護教諭が自身の職務として「特に必要」と考えるもの



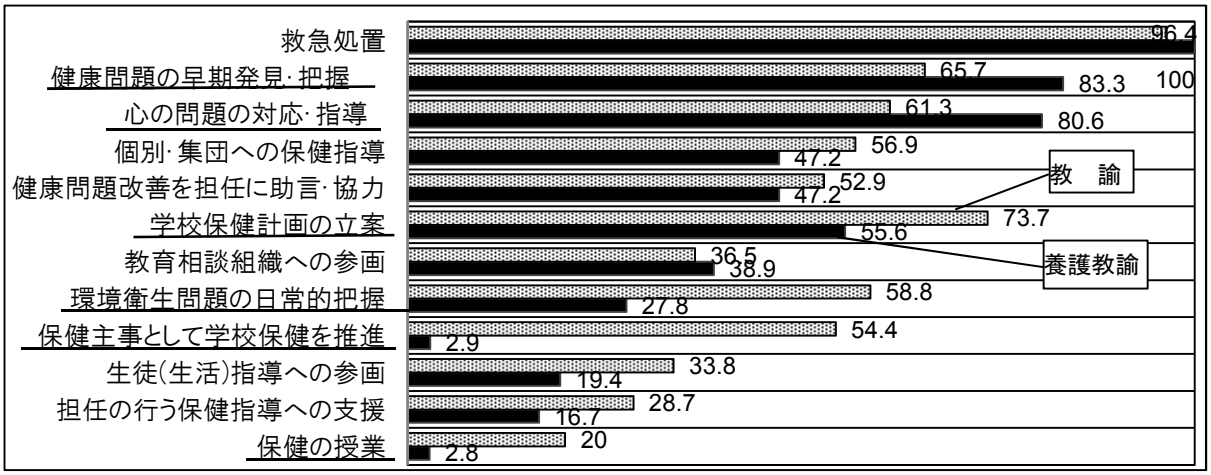
ウ　教諭，養護教諭に共通していること

救急処置を「特に必要」とする割合が最も高く，その割合が先行研究と比べて両者ともに一層高くなっていた。アナフィラキシーショックの対応，ＡＥＤを使っての救命処置など，学校に求められる対応や責任を問われる今の時代の社会背景が，命への意識をより一層強くさせていると考えられる結果となった。

エ　教諭と養護教諭の比較

今回の結果を用いて教諭と養護教諭との比較を行った(**図８**)。その結果，養護教諭は教諭以上に子どもの個々の問題に関わる職務を「特に必要」と答えた。一方教諭が「特に必要」と考える養護教諭の職務は多岐に渡っている。教諭はその中でも「学校保健計画の立案」「環境衛生問題の日常的把握」「保健主事として学校保健を推進」等の管理的側面への期待が高いが，養護教諭は管理的側面の認知度はそれほど高くはなく，認識にズレがあった。**図８**に示すグラフの下線は統計的に差があった項目で，不登校との関わりが大きいと考えられる「心の問題の対応・指導」の認識にも差があった。

図８　養護教諭の職務として「特に必要」と考えるもの　教諭と養護教諭との比較



(5)　養護教諭の中心的役割（養護教諭の職務で最も重要と考える役割）

養護教諭の中心的役割として教諭・養護教諭が１位に挙げた職務は，ともに先行研究と同じく「救急処置」であり，その割合がさらに高くなっていた(**図９・図 10**)。内訳では，養護教諭自身が選ぶ中心的職務は限定される傾向で，養護教諭自身が考える養護教諭像に対する個人差は小さかった。一方，教諭は養護教諭と比較すると選択肢が多く，教諭が考える養護教諭像には個人差が大きかった。

図９　養護教諭が自身の 12 の職務の中で中心的職務と考えるもの

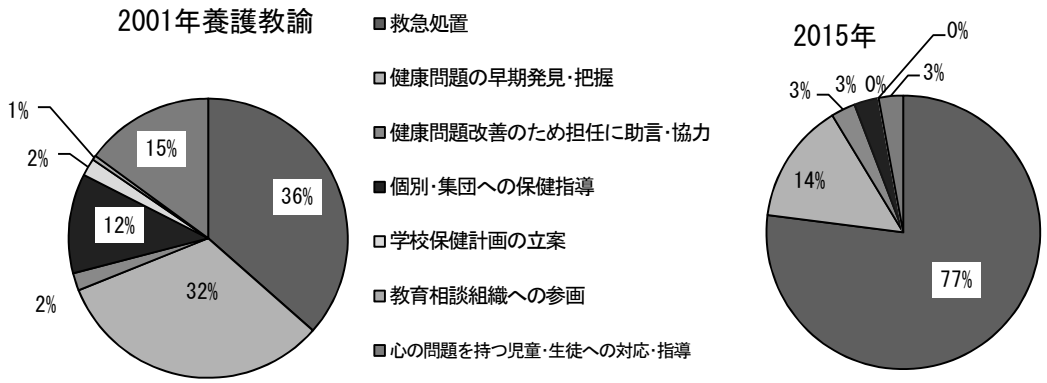
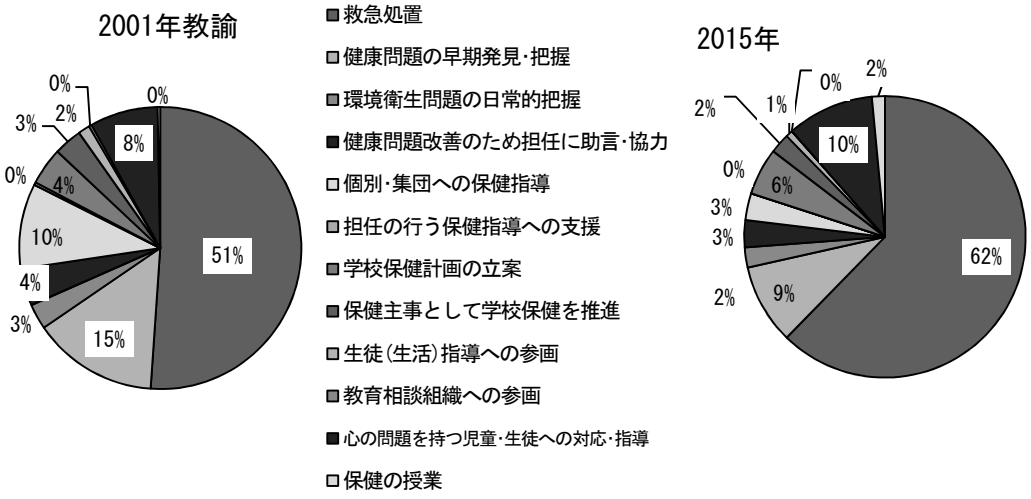


図 10　教諭が養護教諭の 12 の職務の中で中心的職務と考えるもの

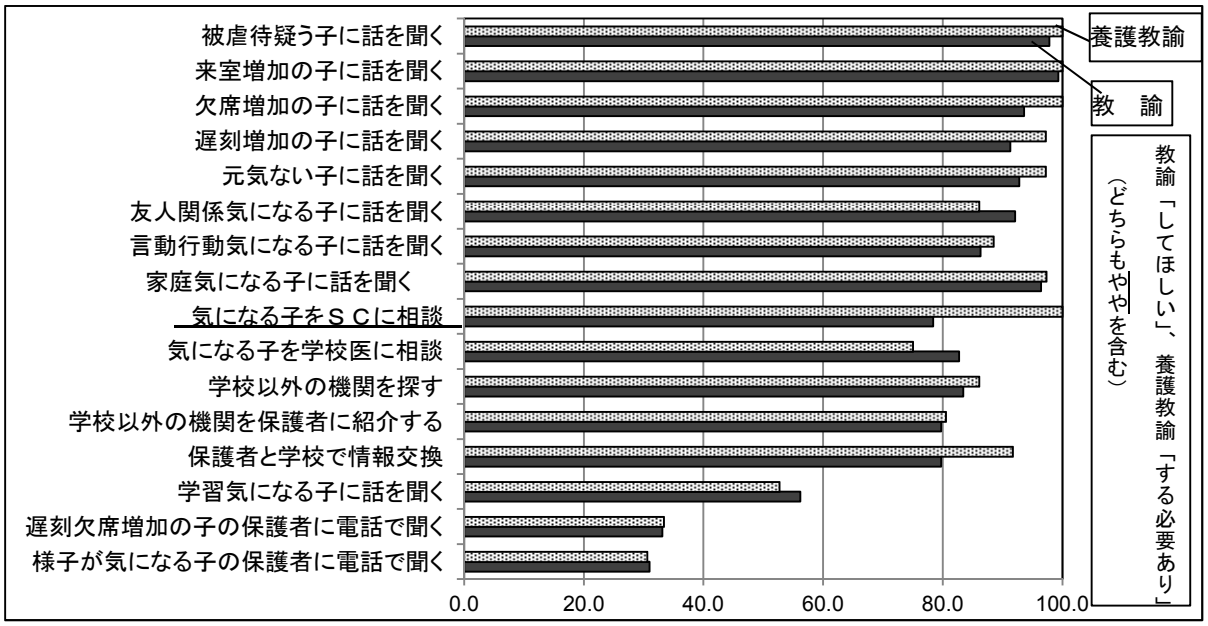


(6)　心の問題を疑う様子がある児童生徒への教諭の養護教諭に対する役割期待と養護教諭の役割認知

不登校との関わりが大きいと考えられる「心の問題への対応・指導」について，養護教諭の職務全般での認識では教諭と養護教諭の認識にズレがあるという結果となった。このズレについて，養護教諭が具体的に児童生徒に関わる職務内容の認識を調べた(**図 11**)。両者ともに役割の認識が低かったものは「保護者への電話連絡」と「学習面の対応」であった。これらの結果は，両者ともにまず教諭が行う役割であるとの認識が高いことを表している。「気になる子をスクールカウンセラー(以下ＳＣ)に相談する」という役割を除き，不登校の兆しを疑うような心の問題を抱えていることが疑われる子どもに，養護教諭が話を聞くなどの直接のアプローチを行うことや，外部の関係機関と連携を行うコーディネーターの役割を務めることについては，教諭の「してほしい」期待と養護教諭の「する必要がある」認知が高い割合で一致していた。このことから，不登校の兆しを見せる子どもへ養護教諭が具体的に支援を行う認識に両者のズレはなく，連携できていると言えるのではないかと考える。

図 11 のグラフで「気になる子をＳＣに相談する」に下線を付けているが、これは統計的に差があったことを示している。養護教諭は心に関することは自分がコーディネーターとなり，全体の調整を行うべきものであると考える傾向が強い。一方，教諭からするとＳＣも養護教諭と並列な学校職員の一人であり，連絡や調整のために養護教諭を介する必要性を感じないと考えてのズレではないかと考える。ＳＣ派遣制度の本格導入から 14 年が経ち，その立場が学校で確立されているとも捉えられる結果である。

図 11　心の問題を疑う様子がある児童生徒への養護教諭の役割認知と教諭の役割期待

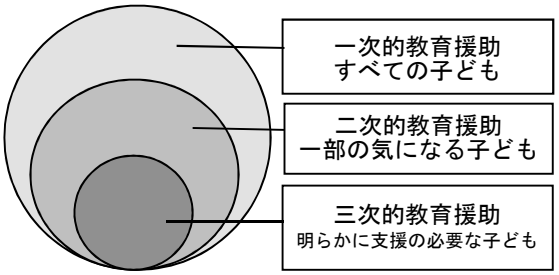


※下線は統計的に差があった項目（χ^2検定で有意確率 5%以下のもの）

５　考察

石隈(1999)は教育援助を，すべての子どもを対象とした「一次的教育援助」，一部の気になる子どもを対象とした「二次的教育援助」，明らかに支援の必要な子どもを対象とした「三次的教育援助」という三段階から捉えている(図 12)。それに照らして結果を整理すると，不登校の兆しが疑われる子どもへの個別の具体的な対応など，二次的教育援助としての連携体制はとれていると考えられる。一方，一次的教育援助につながる，日常の子どもの様子の情報共有には両者にズレがみられた。日常的な子どもに関する情報の共有などをよりスムーズにしていく必要があると考えられる。そこで，次に日常の子どもの様子の情報共有で課題として明らかになった「時間の作り方」と「意識の持ち方」から情報共有をスムーズにしていくための方策を考えた。

図 12　石隈利紀「学校心理学」誠信書房，1999 より作成



(1)　時間の作り方の課題

ア　分析結果より

教室の子どもの様子の伝え方に関する質問項目のうち，出欠状況の４段階すべてで教諭と養護教諭との間にズレが見られたのは「学習面」だけであった。教諭が，成績や宿題など学習面が気になる子どもの様子を養護教諭に伝えようと思わない傾向が強いことは，学習に関わらない養護教諭に対する率直な考えが表れているように思われる。しかし，養護教諭は出欠状況が深刻化している状況で保健室を来室する子どもの中には，学習面が悩みの一因になっている場合があるかもしれないと考え，算数で躓いているとかマラソンが苦手だというような様子を知っておきたい

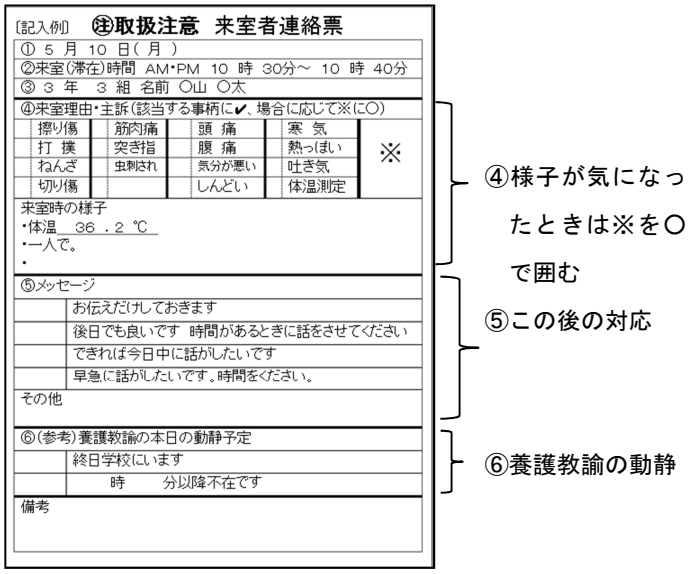
との考えが「必ず伝えてほしい」の割合を高くし，教諭とのズレとなって表れたのではないかと考える。また，子どもに遅刻や欠席が増加してくると，養護教諭の「必ず伝えてほしい」という希望の割合が急上昇しており，教諭と養護教諭との間にズレが発生していた。養護教諭にとって出欠状況は学校全体の子どもの様子を知る重要な手がかりであり，常に正確に把握しておきたいという認識がある。それに加えて出欠状況は心の問題との関連が表れやすいことから，常にその可能性の有無を見極めたいという認識も持っている。そのため遅刻・欠席についての表向きの理由を把握した上で，教室では何か気になる様子がないかなど，子どもの情報を知りたいとの考えが希望の急上昇となって表れたのではないかと考える。教諭の結果からも，出欠状況の深刻さが養護教諭へ子どもの様子を伝える必要度に影響していることがわかる。グラフの変化から双方ともに出欠状況を重要な情報と捉えていることがわかる。お互いに情報を共有したい気持ちは同じであるものの，教諭には伝える時間がないことが課題となっていると考えられる。

イ　課題解決に向けた提案

(ｱ)　時間を取らずにできる情報共有の方法

情報を共有する時間の確保が難しい現状でも可能となる方策を提案したい。まず，教諭の側から出来る方法として，出欠状況を職員室の連絡黒板等へ記入する際，前日に友達とけんかをしたなどの気になる様子がある子どもに，職員だけにわかるマークやチェックを書き加えるようにしてはどうだろうか。それを見ることによって養護教諭が，まずは気になる子どもの名前を知ることができるだけでも，観察や対応の参考にできて有効ではないかと考える。次に養護教諭側からの方法として，**図 13** のような来室者連絡票を利用するのはどうだろうか。保健室に来室した子ども一人一人の情報を教諭に伝えようとしても，授業や部活の指導等で出会えない場合も多い。また，養護教諭の方がけがや病気の対応をしていてすれ違いになるなど，タイミングが合わないこともある。そこで，このような連絡票に様子が気になったことを知らせるマークやこの後の対応，養護教諭の動静の欄を加える工夫をすることにより，直接話ができないときでも情報共有が可能となり，後々の対応もスムーズにできるようになるのではないかと考える。このようにお互いに気になると感じた子どもの名前をあらかじめ伝えておくことにより，多忙な様子に声をかけにくかった場合でも，ちょっとした空き時間など顔を合わせた際に「さっきのことで」と話しかけやすくなるのではないだろうか。より詳しく具体的に様子を尋ねたり，自分が知っている情報を伝えたりなどの情報共有のきっかけを作ることが大切だと考える。

図 13　来室者連絡票


〔記入例〕　**㊟取扱注意　来室者連絡票**

① 5 月 10 日(月)
②来室(滞在)時間 AM・PM 10 時 30分～ 10 時 40分
③ 3 年　3 組 名前 〇山 〇太
④来室理由・主訴(該当する事柄に✔、場合に応じて※に〇)

	擦り傷		筋肉痛		頭 痛		寒 気
	打 撲		突き指		腹 痛		熱っぽい
	ねんざ		虫刺され		気分が悪い		吐き気
	切り傷				しんどい		体温測定

※

来室時の様子
・体温　36 . 2 ℃
・一人で。
・

⑤メッセージ

	お伝えだけしておきます
	後日でも良いです 時間があるときに話をさせてください
	できれば今日中に話がしたいです
	早急に話がしたいです。時間をください。

その他

⑥(参考)養護教諭の本日の動静予定

	終日学校にいます
	時　　分以降不在です

備考

(ｲ)　ちょっとした時間にできる情報共有として

秋光・白木(2010)は「養護教諭が特定の学年団に所属していないことは柔軟で幅広い活動を容易にするが，他の教員との情報交換のしにくさともなりうる」と述べ，篠原・江副・渡邉・宮坂・渡部(2014)は「養護教諭が学年会や朝の学年打合せ等に参加することが有効であると考える。養護教諭だけではなく児童・生徒指導主任や教務主任，専科教員といった学年外の職員が参加することで，より多角的で柔軟な児童生徒理解が可能となるのではないだろうか」と述べている。養護教諭が可能なときに学年会や朝の学年打ち合わせなどに参加できれば，教諭から子どもの学習面や日常の様子を聞いたり，保健室で気付いた様子も伝えたりすることができる。このような心がけを行うことによって養護教諭の職務の特性からの情報交換のしにくさをカバーできるのではないかと思われる。また，保健室へ休憩をかねて立ち寄ってもらうよう教諭に呼びかけ，お茶を飲みながら子どもの話をすることなども，子どもの情報共有だけでなく相互理解につながり有効ではないかと考える。さらに，校内ネットの掲示板等にその日の保健室来室者情報を随時アップし，様子が気になる子にはマークを付ける方法が可能であれば，教諭に手間をかけない共有の方法になるのではないだろうか。相互に関わることができるちょっとした時間への配慮が，情報共有につながることを理解することが大切である。

(ｳ)　可能な範囲での時間設定による情報共有として

時間設定の工夫が可能な場合は，時間枠を大幅に変えなくても，放課後の 20～30 分間会議を行わずに各自何をしてもいいからとにかく職員室にいるという「全員集合タイム」を週に一度でも設ければ，お互いに伝えたいことや聞きたいことが話せる情報共有の時間として利用することができる。現実には部活動の指導などが入っていることもあり，課題が多いと思われ，教職員間の意識の統一が必要になると思われる。

「担任と養護教諭の日常的な情報交換の時間や場の確保は大きな課題で，双方から意図的に設ける必要がある」という指摘がある(篠原ら,2014)。どちらか一方からだけではなく双方から情報共有の工夫を行い，働きかけることが必要であると考える。

(2)　意識の持ち方の課題

日本学校保健会(2012)は「『保健室のことは養護教諭が一人で解決しなくては』という考えにとらわれず，全教職員で問題を共有化することが大切である」と指摘している。今回の調査からも明らかなように，養護教諭は心の問題への対応を特に重要視しており，強い責任とプライドを持って職務に当たっている。また，生徒指導提要(文部科学省,2010)にあるように，「養護教諭は，児童生徒の発するサインを見逃さないようにするとともに，様々な訴えに対して，心身の健康観察や情報収集を図り，問題の背景を的確に分析することが重要」であり，養護教諭はこのような気構えを持って職務を進めている。しかし，心の問題の重要視が過ぎると，どのような様子を見せる子どもであっても丸ごと受け入れようとしすぎる意識や，子どもとの秘密を守ろうと思いすぎる意識が生まれ，保健室での子どもの様子を教諭と共有する意識が低くなるとも考えられる。「生徒が抱えている問題や悩みの全体を理解し，解決するためには養護教諭のみでかかわるには限界があるため，他の教師と連携を図って援助していくことが重要である」との指摘(千葉,2001)

のように，一人で対応しようとせず共同で支援する意識が大切である。組織としての守秘義務を踏まえつつ，教職員間での情報共有を進めることが，子どもへの大きな支援につながるということを養護教諭は認識しておく必要があるのではないかと思われる。

また，蛭田・物部(2010)が提言しているような「市町村単位の養護教諭部会における話し合いや事例検討会を行い，個人の連携行動を振り返るとともに，お互いに情報交換し学びあっていくこと」も有効であろう。各学校に一人配置が多い現状の中で，養護教諭同士で学びあうという意識を持って取り組むことも大切であると思われる。

６　研究のまとめ

今回の研究で，不登校未然防止の観点から教諭と養護教諭が協力し連絡を取り合う連携における課題は，日常の児童生徒の様子を伝えあう情報共有の在り方であることが示された。教諭と養護教諭との連携について千葉(2001)は，「問題行動を示す生徒が，自己治癒力を発揮して，課題改善が図られやすいような環境をつくっていくために，援助にかかわる人々が問題把握から解決まで，互いに協力し連絡をとり合うことである」としている。校内における多様な連携の推進が望まれる。

今，学校を取り巻く状況の変化に対応するため，「チーム学校」の実現が求められ，これまで以上に学校外の機関との連携が必要とされている。そのためにも，まずは校内の教職員同士で互いの職務を理解する努力が必要である。そして，自分が知らない情報を伝えてほしいという相手の思いを理解し，日頃から情報共有をスムーズにするための工夫を行い，双方から意識的に伝えることが必要だと考える。このように校内の体制を確立し，組織的な取組を推進することで教職員同士の連携がより一層促進され，多角的多面的な視点で児童生徒を観察・支援することができ，不登校の未然防止・早期発見・早期支援につながると考える。

【参考･引用文献】

・秋光恵子・白木豊美　チーム援助に関するコーディネーション行動とその基盤となる能力・権限が養護教諭の職務満足感に及ぼす影響　教育心理学研究 58,34-45,2010

・石隈利紀　学校心理学　誠信書房,1999

・伊藤美奈子　保健室登校の実態把握ならびに養護教諭の悩みと意識　教育心理学研究　51,251－260,2003

・大石英史　「気になる子」たちへのかかわりから見えてくる教師の課題　研究論叢第３部芸術・体育・教育・心理 58,37-49,2008

・学校保健安全法一部改正　2008

・熊谷すき子　保健室と養護教諭の特質を生かした相談活動の在り方に関する研究－一人で抱え込まずより有効な支援を行うために－　佐賀県教育センター長期研修事業研修報告要約　2001

・相樂直子・石隈利紀,2005. 教育相談システムの構築と援助サービスに関する研究－Ａ中学校の実践を通して－教育心理学研究,53,579－590

・篠原紘子・江副真木・渡邉靖江・宮坂英行・渡部賢一「児童生徒理解を深めるための保健室との連携」に関わる研究　相模原市立総合教育センター研究集録,231,2014

・文部科学省　学校基本調査　2015

・文部科学省　生徒指導提要　2010

・早坂幸子・斎藤吉雄・中島明勲　養護教諭の役割認知と役割期待　人間情報学研究，３月,第６巻,11-26 頁,2001

・千葉優美　保健室に来室する生徒への援助における校内での効果的な連携の方法に関する研究－養護教諭の取組みに関する実態調査から－広島市教育センター　教員長期研修生研究報告　2001

・中央教育審議会答申　2008

・中田好美・秋光恵子　養護教諭のコーディネーション行動に関する研究　日本養護教諭教育学会第 25 回大会　2013

・中村富美子・荒木田美香子　中堅養護教諭における保健室登校児童生徒に対する支援とその目的に関する質問検討　国際医療福祉大学学会誌　第 18 巻 1 号　2013

・梨木昭平　教職課程「生徒指導論」の実践についての考察　太成学院大学紀要 13,285-296,2011-03

・日本学校保健会.養護教諭が行う健康相談活動の進め方-保健室登校を中心に-東京:日本学校保健会,2012:4

・兵庫県教育委員会　兵庫県下の公立学校児童生徒の問題行動等の状況について　http://www.hyogo-c.ed.jp　2014

・蛭田美咲・物部博文　学校不適応を示す生徒に対する養護教諭の連携行動　横浜国立大学教育人間科学部紀要Ⅰ教育科学,12,155-161　2010

・深澤ひろむ　教室で気になる児童生徒について―保健室で「気になる」生徒に焦点を当てた調査研究―　山梨県総合教育センター　研究紀要教育相談の部,2006

・松本喜男　生徒指導における養護教諭との連携　福島県教育センター所報ふくしま№67,1984

・森田光子・木幡 美奈子・清水 花子　健康相談活動における連携・協働に関する研究の動向,学校健康相談研究,13(1),1-10,2006

・文部科学省　学校基本調査　2014
・文部科学省　児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査　2014
・山田響子・鶴田和世・齋藤理砂子・岡田加奈子　養護教諭の行う連携に関する養護と連携推進要因の整理　千葉大学教育学部研究紀要　第 62 巻 139-145, 2014
・山寺智子・高橋知音　養護教諭をコーディネーターとしたチーム援助－実践事例と先行研究からみた長所と課題－学校心理学研究, 4, 3－13, 2004
・脇山美希　学校の中で養護教諭に求められる役割に関する研究－一般教諭からみた養護教諭のあり方を中心に－　帝京短期大学紀要（16），151-160，2010

おわりに

これまでも児童生徒の支援について，学校関係者などが集まって支援方針等を協議し，保護者とともに取り組んできたことは何度もあった。支援の際，自分の考えの拠り所はそれまでに他の方の実践や言葉から学んだこと，養護教諭としての自分の過去の経験であり，自分の持つものを駆使して対応を行ってきた。しかし一年の研修を終えた今当時を振り返ると，学校組織からの考え方であり，広い視野ではなかったと思う。

この研修期間中は，不登校という問題を通して，様々な状況で悩みや不安を抱えている児童生徒や保護者の，学校では知り得ることのなかった声や姿を知ることができた。また，学校以外に，思い悩む本人や保護者を支援する機関が数多くあること，そして，そこに携わる人々が悩みを抱える人たちに温かい心で寄り添い，支援に取り組まれていることがわかった。

心の支援にもそのときの状態により適切な時期やタイミングがあると言われる。狭い視野ではなく今回の研修で学んだ多角的・多面的な広い視野で，その時期に適切な支援を関係者が連携協力して進められるよう，これからも養護教諭として不登校対策に取り組んでいきたいと思う。

謝辞

この一年の研修期間中，県立教育研修所の小山智久所長，木下吉明管理部長，北川真一郎教務部長兼高校教育課参事，生田淳仁主任指導主事兼義務教育研修課長をはじめ，研修所の皆様に大変お世話になりました。研究におきましても様々なご指導やご助言を賜り，心より感謝申し上げます。

「心の教育総合センター」の松本剛所長，秋光恵子主任研究員，増田美佳子主任指導主事，寺戸武志指導主事からも，心の教育について専門的なご指導を頂きました。示唆に富むご指導やご助言により，研究や日々の業務を進めることができました。また，「ひょうごっ子悩み相談センター」の教育相談員，カウンセラーの皆様にも，電話相談業務の心構えや対応等についてご指ご助言を頂きました。本当にありがとうございました。

そして，この貴重な研修の機会を与えて頂きました兵庫県教育委員会，多可町教育委員会，本研修を勧めてくださった多可町立松井小学校越川昌信前校長，吉田典之校長，研究のアンケート調査実施に当たりご協力を賜りました各市町教育委員会，教諭，養護教諭の皆様に心より感謝申し上げます。

多くの皆様に支えにより本研修が終えられますことをこの報告書にてご報告し，感謝の意をお伝えいたします。

2016 年 3 月 31 日

多可町立松井小学校　養護教諭
不登校対策推進に係る研修員
小西　寿美

資料

表２　教室における子どもの様子の伝え方（教諭の行動と養護教諭の希望の比較）

児童生徒の様子			担任はふだん養護教諭にどの程度伝えているか(%) n=138			養護教諭はそれを伝えてほしいと思うか(%) n=36			χ^2 検定
出欠状況		教室での様子・気になること	必ず伝えている	機会があれば伝えている	伝えていない	必ず伝えてほしい	機会があれば伝えてほしい	特に伝えてほしいとは思わない	
遅刻・欠席はほとんどない	Q１	学校生活で、気になる様子は特にない	1.4	16.7	81.9	0.0	36.1	63.9	＊＊
	Q２	教室での友人関係(トラブルが多い、孤立している等）が気になる	18.0	67.6	14.4	27.8	66.7	5.6	
	Q３	その子の言動や行動(落ち着きがない、自分を表現しない等)が気になる	20.9	62.6	16.5	27.8	69.4	2.8	
	Q４	学習面(成績、宿題、学習態度等)が気になる	2.2	46.0	51.8	8.3	58.3	33.3	＊
	Q５	家庭での生活(食事、身だしなみ、忘れ物等)が気になる	23.7	64.0	12.2	25.0	69.4	5.6	
	Q６	虐待をうかがわせる様子（あざ、身だしなみの著しい乱れ、給食時の食欲等)がある	84.1	13.8	2.2	91.7	8.3	0.0	
遅刻は多いが休まない	Q７	学校生活で、気になる様子は特にない	8.0	45.3	46.7	19.4	44.4	36.1	
	Q８	教室での友人関係(トラブルが多い、孤立している等）が気になる	32.8	59.9	7.3	47.2	47.2	5.6	
	Q９	その子の言動や行動(落ち着きがない、自分を表現しない等)が気になる	32.4	59.6	8.1	50.0	47.2	2.8	
	Q10	学習面(成績、宿題、学習態度等)が気になる	10.2	50.4	39.4	30.6	44.4	25.0	＊＊
	Q11	家庭での生活(食事、身だしなみ、忘れ物等)が気になる	34.3	60.6	5.1	55.6	41.7	2.8	
	Q12	虐待をうかがわせる様子（あざ、身だしなみの著しい乱れ、給食時の食欲等)がある	83.9	14.6	1.5	97.2	2.8	0.0	
急に遅刻が増えた	Q13	学校生活で、気になる様子は特にない	22.6	55.5	21.9	47.2	27.8	25.0	＊＊
	Q14	教室での友人関係(トラブルが多い、孤立している等）が気になる	49.6	46.0	4.4	77.8	19.4	2.8	＊
	Q15	その子の言動や行動(落ち着きがない、自分を表現しない等)が気になる	48.2	47.4	4.4	83.3	13.9	2.8	＊＊
	Q16	学習面(成績、宿題、学習態度等)が気になる	28.5	46.7	24.8	50.0	47.2	2.8	＊＊
	Q17	家庭での生活(食事、身だしなみ、忘れ物等)が気になる	50.4	47.4	2.2	83.3	13.9	2.8	＊＊
	Q18	虐待をうかがわせる様子（あざ、身だしなみの著しい乱れ、給食時の食欲等)がある	84.7	13.9	1.5	94.4	5.6	0.0	
欠席が目立ち始めた	Q19	学校生活で、気になる様子は特にない	38.7	46.0	15.3	63.9	19.4	16.7	＊
	Q20	教室での友人関係(トラブルが多い、孤立している等）が気になる	69.3	27.0	3.6	88.9	11.1	0.0	
	Q21	その子の言動や行動(落ち着きがない、自分を表現しない等)が気になる	63.5	32.8	3.6	91.7	8.3	0.0	＊＊
	Q22	学習面(成績、宿題、学習態度等)が気になる	42.6	39.7	17.6	66.7	33.3	0.0	＊＊
	Q23	家庭での生活(食事、身だしなみ、忘れ物等)が気になる	65.0	33.6	1.5	91.7	8.3	0.0	＊＊
	Q24	虐待をうかがわせる様子（あざ、身だしなみの著しい乱れ、給食時の食欲等)がある	88.3	10.2	1.5	100.0	0.0	0.0	

※養護教諭と教諭について χ^2 検定を行った。＊：ｐ＜0.05、＊＊：ｐ＜0.01

表３　保健室における子どもの様子の伝え方（養護教諭の行動と教諭の希望の比較）

			養護教諭はふだん担任にどの程度伝えているか(%)n=36			担任はそのことを伝えてほしいと思うか(%)n=139			χ^2 検定
児童生徒の様子			必ず伝えている	機会があれば伝えている	伝えていない	必ず伝えてほしい	機会があれば伝えてほしい	特に伝えてほしいとは思わない	
来室頻度	来室時の様子・気になること								
ふだん保健室への来室はほとんどない	Ｑ１	明らかなけがや体調不良である	**86.1**	11.1	**2.8**	94.2	5.0	0.7	
	Ｑ２	明らかなけがや体調不良はないが、体の不調を訴える	**55.6**	44.4	**0.0**	83.5	16.5	0.0	**
	Ｑ３	養護教諭に相談しに来た	**77.8**	22.2	**0.0**	82.7	17.3	0.0	
	Ｑ４	何か言いたいことがありそうだが言わない	**48.6**	42.9	**8.6**	79.1	20.9	0.0	**
	Ｑ５	集団での様子が気になる(他の子どもと会話がない、一人だけ離れている等)	**42.9**	48.6	**8.6**	**82.7**	**16.5**	**0.7**	**
	Ｑ６	虐待をうかがわせる様子がある（あざ、頭髪や服装の著しい乱れ等）	97.1	2.9	0.0	98.6	1.4	0.0	
保健室への来室がたまにある	Ｑ７	明らかなけがや体調不良である	**80.6**	**19.4**	**0.0**	92.8	6.5	0.7	*
	Ｑ８	明らかなけがや体調不良はないが、体の不調を訴える	**61.1**	**38.9**	**0.0**	83.5	16.5	0.0	**
	Ｑ９	養護教諭に相談しに来た	**63.9**	**36.1**	**0.0**	88.5	11.5	0.0	**
	Q10	何か言いたいことがありそうだが言わない	**48.6**	**48.6**	**2.9**	82.0	18.0	0.0	**
	Q11	集団での様子が気になる(他の子どもと会話がない、一人だけ離れている等)	**54.3**	45.7	**0.0**	**87.1**	**12.2**	**0.7**	**
	Q12	虐待をうかがわせる様子がある（あざ、頭髪や服装の著しい乱れ等）	100.0	0.0	0.0	99.3	0.7	0.0	
保健室への来室が目立つ	Q13	明らかなけがや体調不良である	**88.9**	**11.1**	**0.0**	93.5	5.8	0.7	
	Q14	明らかなけがや体調不良はないが、体の不調を訴える	**69.4**	**22.2**	**8.3**	86.3	13.7	0.0	**
	Q15	養護教諭に相談しに来た	**71.4**	**28.6**	**0.0**	91.4	8.6	0.0	**
	Q16	何か言いたいことがありそうだが言わない	**55.6**	**38.9**	**5.6**	87.8	11.5	0.7	**
	Q17	集団での様子が気になる(他の子どもと会話がない、一人だけ離れている等)	**68.6**	31.4	**0.0**	**90.6**	**8.6**	**0.7**	**
	Q18	虐待をうかがわせる様子がある（あざ、頭髪や服装の著しい乱れ等）	100.0	0.0	0.0	98.6	1.4	0.0	
保健室への来室が頻繁である	Q19	明らかなけがや体調不良である	**83.3**	16.7	**0.0**	94.2	5.0	0.7	
	Q20	明らかなけがや体調不良はないが、体の不調を訴える	**61.1**	30.6	**8.3**	83.5	15.1	1.4	**
	Q21	養護教諭に相談しに来た	**72.2**	27.8	**0.0**	91.4	8.6	0.0	**
	Q22	何か言いたいことがありそうだが言わない	**61.1**	33.3	**5.6**	87.1	12.2	0.7	**
	Q23	集団での様子が気になる(他の子どもと会話がない、一人だけ離れている等)	**74.3**	25.7	**0.0**	**89.2**	**10.1**	**0.7**	*
	Q24	虐待をうかがわせる様子がある（あざ、頭髪や服装の著しい乱れ等）	100.0	0.0	0.0	97.8	2.2	0.0	

※養護教諭と教諭について χ^2 検定を行った。*：ｐ＜0.05、**：ｐ＜0.01

表４　教室における子どもの様子の伝え方(教諭自身の意識と行動の比較)

児童生徒の様子			養護教諭にどの程度伝える必要があると思うか(%)n＝138			ふだん養護教諭にどの程度伝えているか(%)n＝138			カッパ係数
出欠状況	教室での様子・気になること		必ず伝える必要がある	機会があれば伝える方が良い	伝える必要はない	必ず伝えている	機会があれば伝えている	伝えていない	
遅刻・欠席はほとんどない	Ｑ１	学校生活で、気になる様子は特にない	2.2	40.1	57.7	1.4	16.7	81.9	0.421
	Ｑ２	教室での友人関係(トラブルが多い、孤立している等）が気になる	29.0	66.7	4.3	18.0	67.6	14.4	0.526
	Ｑ３	その子の言動や行動(落ち着きがない、自分を表現しない等)が気になる	33.3	63.8	2.9	20.9	62.6	16.5	0.492
	Ｑ４	学習面(成績、宿題、学習態度等)が気になる	5.8	66.7	27.5	2.2	46.0	51.8	0.500
	Ｑ５	家庭での生活(食事、身だしなみ、忘れ物等)が気になる	34.8	60.9	4.3	23.7	64.0	12.2	0.514
	Ｑ６	虐待をうかがわせる様子（あざ、身だしなみの著しい乱れ、給食時の食欲等)がある	89.9	10.1	0.0	84.1	13.8	2.2	0.466
遅刻は多いが休まない	Ｑ７	学校生活で、気になる様子は特にない	13.1	56.9	29.9	8.0	45.3	46.7	0.587
	Ｑ８	教室での友人関係(トラブルが多い、孤立している等）が気になる	40.6	57.2	2.2	32.8	59.9	7.3	0.675
	Ｑ９	その子の言動や行動(落ち着きがない、自分を表現しない等)が気になる	45.7	51.4	2.9	32.4	59.6	8.1	0.603
	Ｑ10	学習面(成績、宿題、学習態度等)が気になる	13.0	65.9	21.0	10.2	50.4	39.4	0.578
	Ｑ11	家庭での生活(食事、身だしなみ、忘れ物等)が気になる	46.4	52.2	1.4	34.3	60.6	5.1	0.579
	Ｑ12	虐待をうかがわせる様子（あざ、身だしなみの著しい乱れ、給食時の食欲等)がある	88.3	11.7	0.0	83.9	14.6	1.5	0.637
急に遅刻が増えた	Ｑ13	学校生活で、気になる様子は特にない	31.9	53.6	14.5	22.6	55.5	21.9	0.741
	Ｑ14	教室での友人関係(トラブルが多い、孤立している等）が気になる	59.4	39.1	1.4	49.6	46.0	4.4	0.622
	Ｑ15	その子の言動や行動(落ち着きがない、自分を表現しない等)が気になる	60.6	38.0	1.5	48.2	47.4	4.4	0.705
	Ｑ16	学習面(成績、宿題、学習態度等)が気になる	39.7	47.8	12.5	28.5	46.7	24.8	0.647
	Ｑ17	家庭での生活(食事、身だしなみ、忘れ物等)が気になる	67.2	32.1	0.7	50.4	47.4	2.2	0.622
	Ｑ18	虐待をうかがわせる様子（あざ、身だしなみの著しい乱れ、給食時の食欲等)がある	90.4	9.6	0.0	84.7	13.9	1.5	0.692
欠席が目立ち始めた	Ｑ19	学校生活で、気になる様子は特にない	50.0	40.6	9.4	38.7	46.0	15.3	0.660
	Ｑ20	教室での友人関係(トラブルが多い、孤立している等）が気になる	78.3	20.3	1.4	69.3	27.0	3.6	0.655
	Ｑ21	その子の言動や行動(落ち着きがない、自分を表現しない等)が気になる	74.5	24.1	1.5	63.5	32.8	3.6	0.735
	Ｑ22	学習面(成績、宿題、学習態度等)が気になる	50.0	42.8	7.2	42.6	39.7	17.6	0.694
	Ｑ23	家庭での生活(食事、身だしなみ、忘れ物等)が気になる	74.6	24.6	0.7	65.0	33.6	1.5	0.763
	Ｑ24	虐待をうかがわせる様子（あざ、身だしなみの著しい乱れ、給食時の食欲等)がある	93.5	6.5	0.0	88.3	10.2	1.5	0.609

※網掛けとなっている項目は，カッパ係数が 0.7 以上(一致度が高いことを意味する)のものである。

表５　保健室における子どもの様子の伝え方（養護教諭自身の意識と行動の比較）

児童生徒の様子			担任にどの程度伝える必要があると思うか(%)n＝36			ふだん担任にどの程度伝えているか(%)n＝36			カッパ係数
来室頻度	来室時の様子・気になること		必ず伝える必要がある	機会があれば伝える方が良い	伝える必要はない	必ず伝えている	機会があれば伝えている	伝えていない	
ふだん保健室への来室はほとんどない	Q１	明らかなけがや体調不良である	91.7	8.3	0.0	86.1	11.1	2.8	0.586
	Q２	明らかなけがや体調不良はないが、体の不調を訴える	52.8	47.2	0.0	55.6	44.4	0.0	0.609
	Q３	養護教諭に相談しに来た	75.0	25.0	0.0	77.8	22.2	0.0	0.769
	Q４	何か言いたいことがありそうだが言わない	47.2	44.4	8.3	48.6	42.9	8.6	0.746
	Q５	集団での様子が気になる(他の子どもと会話がない、一人だけ離れている等)	52.8	44.4	2.8	42.9	48.6	8.6	0.743
	Q６	虐待をうかがわせる様子がある（あざ、頭髪や服装の著しい乱れ等）	97.2	2.8	0.0	97.1	2.9	0.0	1.000
保健室への来室がたまにある	Q７	明らかなけがや体調不良である	86.1	13.9	0.0	80.6	19.4	0.0	0.801
	Q８	明らかなけがや体調不良はないが、体の不調を訴える	51.4	48.6	0.0	61.1	38.9	0.0	0.713
	Q９	養護教諭に相談しに来た	69.4	30.6	0.0	63.9	36.1	0.0	0.875
	Q10	何か言いたいことがありそうだが言わない	47.2	47.2	5.6	48.6	48.6	2.9	0.783
	Q11	集団での様子が気になる(他の子どもと会話がない、一人だけ離れている等)	58.3	41.7	0.0	54.3	45.7	0.0	0.884
	Q12	虐待をうかがわせる様子がある（あざ、頭髪や服装の著しい乱れ等）	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	1.000
保健室への来室が目立つ	Q13	明らかなけがや体調不良である	88.9	8.3	2.8	88.9	11.1	0.0	0.862
	Q14	明らかなけがや体調不良はないが、体の不調を訴える	69.4	27.8	2.8	69.4	22.2	8.3	0.694
	Q15	養護教諭に相談しに来た	71.4	28.6	0.0	71.4	28.6	0.0	1.000
	Q16	何か言いたいことがありそうだが言わない	61.1	36.1	2.8	55.6	38.9	5.6	0.839
	Q17	集団での様子が気になる(他の子どもと会話がない、一人だけ離れている等)	72.2	27.8	0.0	68.6	31.4	0.0	0.861
	Q18	虐待をうかがわせる様子がある（あざ、頭髪や服装の著しい乱れ等）	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	1.000
保健室への来室が頻繁である	Q19	明らかなけがや体調不良である	88.9	8.3	2.8	83.3	16.7	0.0	0.660
	Q20	明らかなけがや体調不良はないが、体の不調を訴える	63.9	33.3	2.8	61.1	30.6	8.3	0.725
	Q21	養護教諭に相談しに来た	75.0	25.0	0.0	72.2	27.8	0.0	0.786
	Q22	何か言いたいことがありそうだが言わない	63.9	33.3	2.8	61.1	33.3	5.6	0.888
	Q23	集団での様子が気になる(他の子どもと会話がない、一人だけ離れている等)	75.0	25.0	0.0	74.3	25.7	0.0	0.767
	Q24	虐待をうかがわせる様子がある（あざ、頭髪や服装の著しい乱れ等）	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	1.000

※網掛けとなっている項目は，カッパ係数が 0.7 以上（一致度が高いことを意味する）のものである。

表６　養護教諭の職務「特に必要」と中心的役割の選択状況（養護教諭・教諭の比較）

		「特に必要」の状況			中心的役割	
	対象者 / 養護教諭の役割	養護教諭 (%)n=36	教諭 (%)n=137	χ^2検定	養護教諭 (%)n=35	教諭 (%)n=130
1	救急処置	100.0%	96.4%		77.1%	62.3%
2	健康問題の早期発見･把握	83.3	65.7	＊	14.3	9.2
3	環境衛生問題の日常的把握	27.8	58.8	＊	0.0	2.3
4	健康問題改善のため担任に助言･協力	47.2	52.9		2.9	3.1
5	個別･集団への保健指導	47.2	56.9		2.9	3.1
6	担任の行う保健指導への支援	16.7	28.7		0.0	0.0
7	学校保健計画の立案	55.6	73.7	＊	0.0	5.4
8	保健主事として学校保健を推進	2.9	54.4	＊＊	0.0	2.3
9	生徒(生活)指導への参画	19.4	33.8		0.0	0.8
10	教育相談組織への参画	38.9	36.5		0.0	0.0
11	心の問題を持つ児童･生徒への対応･指導	80.6	61.3	＊	2.9	10.0
12	保健の授業	2.8	20.0	＊＊	0.0	0.0

※養護教諭と教諭についてχ^2検定を行った。＊：ｐ＜0.05、＊＊：ｐ＜0.01

表７　心の問題を疑う児童生徒に対して養護教諭が行う職務に対する認識（養護教諭・教諭の比較）

		養護教諭として(%)n=36				担任として養護教諭に(%)n=139				χ^2検定
	ことがら	する必要がある	ややする必要がある	あまりする必要はない	する必要はない	してほしい	ややしてほしい	あまりしてほしいとは思わない	してほしいとは思わない	
1	元気がない児童生徒に話を聞く	52.8	44.4	2.8	0.0	39.6	53.2	7.2	0.0	
2	教室での友人関係(トラブルが多い、孤立している等）が気になる児童生徒に話を聞く	33.3	52.8	13.9	0.0	41.0	51.1	7.9	0.0	
3	言動や行動(落ち着きがない、自分を表現しない等)が気になる児童生徒に話を聞く	31.4	57.1	11.4	0.0	33.8	52.5	12.9	0.7	
4	学習面(成績、宿題、学習態度等)が気になる児童生徒に話を聞く	8.3	44.4	47.2	0.0	5.8	50.4	36.0	7.9	
5	家庭での生活(食事、身だしなみ、忘れ物等)が気になる児童生徒に話を聞く	41.7	55.6	2.8	0.0	39.6	56.8	3.6	0.0	
6	虐待をうかがわせる様子がある児童生徒に話を聞く	91.7	8.3	0.0	0.0	86.3	11.5	2.2	0.0	
7	遅刻が増えてきた児童生徒に話を聞く	47.2	50.0	2.8	0.0	49.6	41.7	7.2	1.4	
8	欠席が増えてきた児童生徒に話を聞く	75.0	25.0	0.0	0.0	61.9	31.7	5.0	1.4	
9	保健室来室が増えてきた児童生徒に話を聞く	100.0	0.0	0.0	0.0	83.5	15.8	0.7	0.0	＊
10	遅刻や欠席が増えてきた児童生徒の保護者に、電話で家庭での様子を聞く	5.6	27.8	47.2	19.4	5.8	27.3	49.6	17.3	
11	学校生活の様子が気になる児童生徒の保護者に、電話で家庭での様子を聞く	5.6	25.0	52.8	16.7	5.8	25.2	48.9	20.1	
12	保護者と出会ったときに児童生徒について情報交換をする	36.1	55.6	8.3	0.0	29.0	50.7	14.5	5.8	
13	気になる児童生徒について、スクールカウンセラーに相談する	66.7	33.3	0.0	0.0	30.9	47.5	16.5	5.0	＊＊
14	気になる児童生徒について学校医に相談する	36.1	38.9	22.2	2.8	34.5	48.2	14.4	2.9	
15	学校以外の支援・相談機関や適切な医療機関を探す	50.0	36.1	13.9	0.0	38.8	44.6	12.2	4.3	
16	学校以外の支援・相談機関や適切な医療機関を保護者に紹介する	33.3	47.2	16.7	2.8	32.6	47.1	13.8	6.5	

※養護教諭と教諭についてχ^2検定を行った。＊：ｐ＜0.05、＊＊：ｐ＜0.01

※項目９は「する必要がある」と「ややする必要がある」,「してほしい」と「ややしてほしい」をまとめた分析では有意差が認められなかった。

資料　教諭用アンケート調査用紙

先生ご自身についてお聞かせください
当てはまるものを〇で囲んでください

性別（　男　・　女　）

年代（　20 代・30 代・40 代・50 代・60 代　）

学級担任経験

（　現在担任をしている・今はしていないが過去に担任をしたことがある・担任をしたことはない　）

問１①養護教諭の職務についての先生のお考えをお伺いします。下記のような職務が養護教諭にどのくらい必要と考えますか。必要度を下記の「特に必要」「比較的必要」「比較的不必要」「不必要」の４つの選択肢から１つだけ選んで〇を付けてください。

	養護教諭としての役割の必要度	下の4つの選択肢から1つだけ選択			
	【項　目】	特に必要	比較的必要	比較的不必要	不必要
例	保健便りの作成	〇			
1	救急処置				
2	健康問題の早期発見･把握				
3	環境衛生問題の日常的把握				
4	健康問題改善のため担任に助言･協力				
5	個別･集団への保健指導				
6	担任の行う保健指導への支援				
7	学校保健計画の立案				
8	保健主事として学校保健を推進				
9	生徒(生活)指導への参画				
10	教育相談組織への参画				
11	心の問題を持つ児童･生徒への対応･指導				
12	保健の授業				

問１②上の１～12 のうち，あなたが養護教諭の最も重要な役割と思うものを１つ選び，その番号を〇で囲んでください。

（　１　２　３　４　５　６　７　８　９　10　11　12　）

問２あなたは，自分のクラスに下のような子どもが居たとき，その子どもの情報を①ふだん養護教諭にどの程度伝えていますか？また，②どの程度伝える必要があると思いますか。Ｑ１～Ｑ24について，それぞれ３つの選択肢から１つだけ選んで〇を付けてください。

			①ふだん養護教諭にどの程度伝えていますか			②養護教諭にどの程度伝える必要があると思いますか		
児童生徒の様子			必ず伝えている	機会があれば伝えている	伝えていない	必ず伝える必要がある	機会があれば伝える方が良い	伝える必要はない
出欠状況		教室での様子・気になること						
遅刻・欠席はほとんどない	Ｑ１	学校生活で、気になる様子は特にない						
	Ｑ２	教室での友人関係(トラブルが多い、孤立している等）が気になる						
	Ｑ３	その子の言動や行動(落ち着きがない、自分を表現しない等)が気になる						
	Ｑ４	学習面(成績、宿題、学習態度等)が気になる						
	Ｑ５	家庭での生活(食事、身だしなみ、忘れ物等)が気になる						
	Ｑ６	虐待をうかがわせる様子（あざ、身だしなみの著しい乱れ、給食時の食欲等)がある						
遅刻は多いが休まない	Ｑ７	学校生活で、気になる様子は特にない						
	Ｑ８	教室での友人関係(トラブルが多い、孤立している等）が気になる						
	Ｑ９	その子の言動や行動(落ち着きがない、自分を表現しない等)が気になる						
	Q10	学習面(成績、宿題、学習態度等)が気になる						
	Q11	家庭での生活(食事、身だしなみ、忘れ物等)が気になる						
	Q12	虐待をうかがわせる様子（あざ、身だしなみの著しい乱れ、給食時の食欲等)がある						
急に遅刻が増えた	Q13	学校生活で、気になる様子は特にない						
	Q14	教室での友人関係(トラブルが多い、孤立している等）が気になる						
	Q15	その子の言動や行動(落ち着きがない、自分を表現しない等)が気になる						
	Q16	学習面(成績、宿題、学習態度等)が気になる						
	Q17	家庭での生活(食事、身だしなみ、忘れ物等)が気になる						
	Q18	虐待をうかがわせる様子（あざ、身だしなみの著しい乱れ、給食時の食欲等)がある						
欠席が目立ち始めた	Q19	学校生活で、気になる様子は特にない						
	Q20	教室での友人関係(トラブルが多い、孤立している等）が気になる						
	Q21	その子の言動や行動(落ち着きがない、自分を表現しない等)が気になる						
	Q22	学習面(成績、宿題、学習態度等)が気になる						
	Q23	家庭での生活(食事、身だしなみ、忘れ物等)が気になる						
	Q24	虐待をうかがわせる様子（あざ、身だしなみの著しい乱れ、給食時の食欲等)がある						

問３あなたは，自分のクラスの子どもが下のような状況で保健室に行ったとき，養護教諭からそのことを伝えてほしいと思いますか。Ｑ１～Ｑ24について，それぞれ３つの選択肢から１つだけ選んで○を付けてください。

児童生徒の様子			必ず伝えてほしい	機会があれば伝えてほしい	特に伝えてほしいとは思わない
来室頻度	来室時の様子・気になること				
ふだん保健室への来室はほとんどない	Ｑ１	明らかなけがや体調不良である			
	Ｑ２	明らかなけがや体調不良はないが、体の不調を訴える			
	Ｑ３	養護教諭に相談しに来た			
	Ｑ４	何か言いたいことがありそうだが言わない			
	Ｑ５	集団での様子が気になる(他の子どもと会話がない、一人だけ離れている等)			
	Ｑ６	虐待をうかがわせる様子がある（あざ、頭髪や服装の著しい乱れ等）			
保健室への来室がたまにある	Ｑ７	明らかなけがや体調不良である			
	Ｑ８	明らかなけがや体調不良はないが、体の不調を訴える			
	Ｑ９	養護教諭に相談しに来た			
	Ｑ10	何か言いたいことがありそうだが言わない			
	Ｑ11	集団での様子が気になる(他の子どもと会話がない、一人だけ離れている等)			
	Ｑ12	虐待をうかがわせる様子がある（あざ、頭髪や服装の著しい乱れ等）			
保健室への来室が目立つ	Ｑ13	明らかなけがや体調不良である			
	Ｑ14	明らかなけがや体調不良はないが、体の不調を訴える			
	Ｑ15	養護教諭に相談しに来た			
	Ｑ16	何か言いたいことがありそうだが言わない			
	Ｑ17	集団での様子が気になる(他の子どもと会話がない、一人だけ離れている等)			
	Ｑ18	虐待をうかがわせる様子がある（あざ、頭髪や服装の著しい乱れ等）			
保健室への来室が頻繁である	Ｑ19	明らかなけがや体調不良である			
	Ｑ20	明らかなけがや体調不良はないが、体の不調を訴える			
	Ｑ21	養護教諭に相談しに来た			
	Ｑ22	何か言いたいことがありそうだが言わない			
	Ｑ23	集団での様子が気になる(他の子どもと会話がない、一人だけ離れている等)			
	Ｑ24	虐待をうかがわせる様子がある（あざ、頭髪や服装の著しい乱れ等）			

問４あなたのクラスの児童生徒を想定してください。下の 16 項目のそれぞれを養護教諭にどの程度してほしいと思いますか。4 つの選択肢から 1 つだけ選んで〇を付けてください。

	養護教諭に ことがら	してほしい	ややしてほしい	あまりしてほしいとは思わない	してほしいとは思わない
1	元気がない児童生徒に話を聞いてほしい				
2	教室での友人関係(トラブルが多い、孤立している等）が気になる児童生徒に話を聞いてほしい				
3	言動や行動(落ち着きがない、自分を表現しない等)が気になる児童生徒に話を聞いてほしい				
4	学習面(成績、宿題、学習態度等)が気になる児童生徒に話を聞いてほしい				
5	家庭での生活(食事、身だしなみ、忘れ物等)が気になる児童生徒に話を聞いてほしい				
6	虐待をうかがわせる様子がある児童生徒に話を聞いてほしい				
7	遅刻が増えてきた児童生徒に話を聞いてほしい				
8	欠席が増えてきた児童生徒に話を聞いてほしい				
9	保健室来室が増えてきた児童生徒に話を聞ほしい				
10	遅刻や欠席が増えてきた児童生徒の保護者に、電話で家庭での様子を聞いてほしい				
11	学校生活の様子が気になる児童生徒の保護者に、電話で家庭での様子を聞いてほしい				
12	保護者と出会ったときに児童生徒について情報交換をしてほしい				
13	気になる児童生徒について、スクールカウンセラーに相談してほしい				
14	気になる児童生徒について学校医に相談してほしい				
15	学校以外の支援・相談機関や適切な医療機関を探してほしい				
16	学校以外の支援・相談機関や適切な医療機関を保護者に紹介してほしい				

資料　養護教諭用アンケート調査用紙

先生ご自身についてお聞かせください
当てはまるものを〇で囲んでください
　性別（　男　・　女　）
　年代（　20 代・30 代・40 代・50 代・60 代　）

問１①養護教諭の職務についての先生のお考えをお伺いします。下記のような職務が養護教諭にどのくらい必要と考えますか。必要度を下記の「特に必要」「比較的必要」「比較的不必要」「不必要」の４つの選択肢から１つだけ選んで〇を付けてください。

	養護教諭としての役割の必要度	下の4つの選択肢から1つだけ選択			
	【項　目】	特に必要	比較的必要	比較的不必要	不必要
例	保健便りの作成	〇			
1	救急処置				
2	健康問題の早期発見･把握				
3	環境衛生問題の日常的把握				
4	健康問題改善のため担任に助言･協力				
5	個別･集団への保健指導				
6	担任の行う保健指導への支援				
7	学校保健計画の立案				
8	保健主事として学校保健を推進				
9	生徒(生活)指導への参画				
10	教育相談組織への参画				
11	心の問題を持つ児童･生徒への対応･指導				
12	保健の授業				

問１②上の１～12 のうち，あなたが養護教諭の最も重要な役割と思うものを１つ選び，その番号を〇で囲んでください。
（　１　２　３　４　５　６　７　８　９　10　11　12　）

問２あなたは，下のような子どもが居たとき，その子どもについての情報を①ふだん担任の先生にどの程度伝えていますか？また，②担任の先生にどの程度伝える必要があると思いますか。Ｑ１～Q24 について，それぞれ３つの選択肢から１つだけ選んで〇を付けてください。

			①ふだん担任の先生にどの程度伝えていますか			②担任の先生にどの程度伝える必要があると思いますか		
児童生徒の様子			必ず伝えている	機会があれば伝えている	伝えていない	必ず伝える必要がある	機会があれば伝える方が良い	伝える必要はない
来室頻度		来室時の様子・気になること						
ふだん保健室への来室はほとんどない	Ｑ１	明らかなけがや体調不良である						
	Ｑ２	明らかなけがや体調不良はないが、体の不調を訴える						
	Ｑ３	養護教諭に相談しに来た						
	Ｑ４	何か言いたいことがありそうだが言わない						
	Ｑ５	集団での様子が気になる(他の子どもと会話がない、一人だけ離れている等)						
	Ｑ６	虐待をうかがわせる様子がある（あざ、頭髪や服装の著しい乱れ等）						
保健室への来室がたまにある	Ｑ７	明らかなけがや体調不良である						
	Ｑ８	明らかなけがや体調不良はないが、体の不調を訴える						
	Ｑ９	養護教諭に相談しに来た						
	Q10	何か言いたいことがありそうだが言わない						
	Q11	集団での様子が気になる(他の子どもと会話がない、一人だけ離れている等)						
	Q12	虐待をうかがわせる様子がある（あざ、頭髪や服装の著しい乱れ等）						
保健室への来室が目立つ	Q13	明らかなけがや体調不良である						
	Q14	明らかなけがや体調不良はないが、体の不調を訴える						
	Q15	養護教諭に相談しに来た						
	Q16	何か言いたいことがありそうだが言わない						
	Q17	集団での様子が気になる(他の子どもと会話がない、一人だけ離れている等)						
	Q18	虐待をうかがわせる様子がある（あざ、頭髪や服装の著しい乱れ等）						
保健室への来室が頻繁である	Q19	明らかなけがや体調不良である						
	Q20	明らかなけがや体調不良はないが、体の不調を訴える						
	Q21	養護教諭に相談しに来た						
	Q22	何か言いたいことがありそうだが言わない						
	Q23	集団での様子が気になる(他の子どもと会話がない、一人だけ離れている等)						
	Q24	虐待をうかがわせる様子がある（あざ、頭髪や服装の著しい乱れ等）						

問３あなたは，下のような子どもがいたとき，担任の先生からその状況を伝えてほしいと思いますか。

Ｑ１～Q24について，それぞれ３つの選択肢から１つだけ選んで〇を付けてください。

児童生徒の様子			必ず伝えてほしい	機会があれば伝えてほしい	特に伝えてほしいとは思わない
出欠状況		教室での様子・気になること			
遅刻・欠席はほとんどない	Ｑ１	学校生活で、気になる様子は特にない			
	Ｑ２	教室での友人関係(トラブルが多い、孤立している等）が気になる			
	Ｑ３	その子の言動や行動(落ち着きがない、自分を表現しない等)が気になる			
	Ｑ４	学習面(成績、宿題、学習態度等)が気になる			
	Ｑ５	家庭での生活(食事、身だしなみ、忘れ物等)が気になる			
	Ｑ６	虐待をうかがわせる様子（あざ、身だしなみの著しい乱れ、給食時の食欲等)がある			
遅刻は多いが休まない	Ｑ７	学校生活で、気になる様子は特にない			
	Ｑ８	教室での友人関係(トラブルが多い、孤立している等）が気になる			
	Ｑ９	その子の言動や行動(落ち着きがない、自分を表現しない等)が気になる			
	Q10	学習面(成績、宿題、学習態度等)が気になる			
	Q11	家庭での生活(食事、身だしなみ、忘れ物等)が気になる			
	Q12	虐待をうかがわせる様子（あざ、身だしなみの著しい乱れ、給食時の食欲等)がある			
急に遅刻が増えた	Q13	学校生活で、気になる様子は特にない			
	Q14	教室での友人関係(トラブルが多い、孤立している等）が気になる			
	Q15	その子の言動や行動(落ち着きがない、自分を表現しない等)が気になる			
	Q16	学習面(成績、宿題、学習態度等)が気になる			
	Q17	家庭での生活(食事、身だしなみ、忘れ物等)が気になる			
	Q18	虐待をうかがわせる様子（あざ、身だしなみの著しい乱れ、給食時の食欲等)がある			
欠席が目立ち始めた	Q19	学校生活で、気になる様子は特にない			
	Q20	教室での友人関係(トラブルが多い、孤立している等）が気になる			
	Q21	その子の言動や行動(落ち着きがない、自分を表現しない等)が気になる			
	Q22	学習面(成績、宿題、学習態度等)が気になる			
	Q23	家庭での生活(食事、身だしなみ、忘れ物等)が気になる			
	Q24	虐待をうかがわせる様子（あざ、身だしなみの著しい乱れ、給食時の食欲等)がある			

問４あなたは，下のことがらについて，養護教諭としてどの程度する必要があると思いますか。４つの選択肢から１つだけ選んで〇を付けてください。

	養護教諭として ことがら	する必要がある	ややする必要がある	あまりする必要はない	する必要はない
1	元気がない児童生徒に話を聞く				
2	教室での友人関係(トラブルが多い、孤立している等）が気になる児童生徒に話を聞く				
3	言動や行動(落ち着きがない、自分を表現しない等)が気になる児童生徒に話を聞く				
4	学習面(成績、宿題、学習態度等)が気になる児童生徒に話を聞く				
5	家庭での生活(食事、身だしなみ、忘れ物等)が気になる児童生徒に話を聞く				
6	虐待をうかがわせる様子がある児童生徒に話を聞く				
7	遅刻が増えてきた児童生徒に話を聞く				
8	欠席が増えてきた児童生徒に話を聞く				
9	保健室来室が増えてきた児童生徒に話を聞く				
10	遅刻や欠席が増えてきた児童生徒の保護者に、電話で家庭での様子を聞く				
11	学校生活の様子が気になる児童生徒の保護者に、電話で家庭での様子を聞く				
12	保護者と出会ったときに児童生徒について情報交換をする				
13	気になる児童生徒について、スクールカウンセラーに相談する				
14	気になる児童生徒について学校医に相談する				
15	学校以外の支援・相談機関や適切な医療機関を探す				
16	学校以外の支援・相談機関や適切な医療機関を保護者に紹介する				